

鳥羽離宮の瓦窯

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



段瓦の葺き上げ状況

両端が反り返った平瓦の繋ぎ目に半円筒形の丸瓦をかぶせて屋根を葺くのが本瓦葺である。段瓦とは、本瓦葺で平瓦・丸瓦が重なり合う部分にそれぞれ段を作り出し、しっかりと組合うように工夫した瓦である。

平安時代も後期になると、寺院の造営や平安宮の修築に使用された瓦は、地方の国で生産されたものが多くなる。こうした傾向は鳥羽離宮でも見受けられ、地方窯で生産された瓦が多量に出土する。それらの瓦を生産地別に見ると、播磨・讃岐・尾張・河内・大和（南都）などの諸国がある。これらの産地国は京都から近いところでも数10km、遠いところでは数100kmも離れている。

ところで、瓦は性格上一枚や二枚では役に立たず、建物によっては数万枚を必要とする場合もある。そうしたときには瓦の総重量は膨大なものになる。このため、瓦を遠隔地から多量に運搬する際に水運を利用したであろうが、大変な労力を費やしていることは想像に難くない。そのため古代では、瓦生産の場所をなるべく消費地の近くに求めることが一般的であった。しかしながら、平安時代中期以降

の律令体制の崩壊とともに、山城国の官営の造瓦所で製作されていた瓦の生産は、徐々に衰退していった。

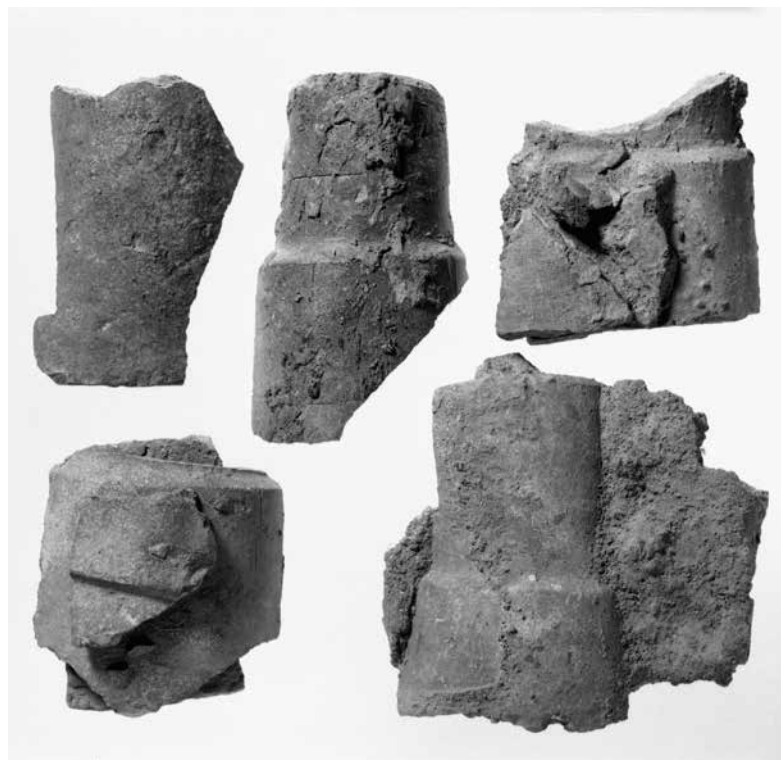
一方、『延喜式』にあるような須恵器つぎを調として差し出す国々では、窯業生産の著しい発展が認められた。平安時代後期になって、都に瓦を供給していたのは、これらの国々であった。また、これより若干さかのぼった頃より、造営工事を各国に負担させる制度くにあてせい（国充制）

がしかれていた。そして、このような時代背景のなかで行なわれたのが鳥羽離宮や六勝寺^{りくしょうじ}を始めとする造営であった。

さて、1960年以降、継続的に実施してきた鳥羽離宮跡の発掘調査では、いろいろな性格の遺構を多数発見してきた。たとえば、南殿跡・東殿跡・田中殿跡では建物跡や庭園遺構などを発見し、造営当初の姿をかなり具体的に知るようになった。また、当時の土木技術についても、かなりの部分について解明することができるようになってきた。そして、今までの成果を総合すると離宮の造営がいかに複雑であったか知ることができるようになった。次に、その調査成果を紹介しながら離宮造営の一端を考えてみよう。

1977年に田中殿推定地の北東で発掘調査を実施したところ、建物の基礎工事の痕跡を発見した。これは玉石と粘土を交互に積み上げながら版築したものである。この中からは玉石に混じって、焼け歪んだ瓦や窯壁、瓦と窯壁が癒着したものが出土したのである。原位置を保っているものは一点もなかったものの、発見した瓦片や窯壁片はいずれも大きな破片で、この他にも炭や灰、焼け土なども出土しており、瓦窯の存在を想定させる。しかし、これらの痕跡だけで直ちに瓦窯があったとするまでには至らなかった。

その理由は、まず第一に、このあたりが窯を構築できるような地形とは考えられなかったことである。焼け歪んだ瓦や窯壁はすべて



出土した焼け歪んだ瓦

色が青灰色で、よく焼けしまっていることから、焼成した窯は平窯ではなく^{あながま}窰窯であったと考えられる。しかし調査地付近は、一帯が平地で窰窯を構築するのに不向きな地形なのである。第二の理由は、焼け歪んだ丸瓦や平瓦は一片残らず特異な段瓦（表写真）で、このような瓦だけを離宮内で生産したとは考えられないことであった。

しかし、調査の進展によって新たな発見が相次いだ。1984年になって先の調査地の北西で実施した発掘調査では、建物跡・溝跡^{どこう}・土壌群などを発見した。ここで問題となるのが土壌群である。この遺構は平面の形が不定形な土壌群で、田中殿造営時に埋め戻されている。土壌の深さは約50cmでほぼ一定しており、平安宮跡などで見られる近世の土取り穴の状況に極めて良く似ている。このようなことからこの土壌群は瓦の製作に使った粘

土の採掘坑であると考えられ、瓦窯の存在を裏付ける結果となった。さらに、周辺部の調査では、埴輪を持つ古墳の発見例が増えており田中殿近辺の旧地形は起伏に富んでいたことが明らかになってきた。以上のことより、窰窯の構築も十分考えられるようになったのである。

最後に、この瓦窯の生産にたずさわっていた人々について考えてみよう。ここで生産された瓦は白河天皇陵を囲む堀の中から多量に出土している。ともに出土した軒瓦を観察すると、当時播磨国で盛行していた特徴的な技法で作られていたことがわかる。おそらく、この窯を操業していた人々の何人かは、鳥羽離宮の造営のために播磨国から移ってきたのであろう。こうした瓦窯も田中殿の造営時には操業しておらず、跡形もなく削平されてしまったのである。